Jazz Interview Vol.50

リーダーシップ溢れる若きベースマン

権上康志【Yasushi Gonjo】

写真提供：権上康志

ベーシストとしてだけでなく、「ジンジャーブレッドボーイズ」「GROOVE MERCHANT」のリーダーであり、自身のレーベルも立ち上げる等、その統率力にも目を見張る権上康志。今の日本ジャズ界にとって貴重な逸材で、2014 年から拠点を関西からニューヨークに移し、切磋琢磨しながらコンスタントに傑作を生み出し続けている若きベースマンに話を聞いた。

【2017 年 8 月　取材：加瀬正之】

♪ 2014 年からニューヨークに拠点に活動されていますが、現在の心境と活動について聞かせて下さい。

早いものでニューヨーク生活もこの 7 月で丸 3 年を迎えました。当初は（今でもそうですが）お金が尽きたら日本に帰るしかないという状況で、無我夢中に動き続けてあっという間に 3 年が経ったという感じです。現在はニューヨークやニュージャージーのライブハウスや BAR、レストランやストリートでもとにかく演奏の機会があればベースを担いで走り回っています。また '15 年の Jack in the Box、米山紘史（ギター）、'16 年の二見勇気（ピアノ）、辻佳孝（ピアノ）、今年 2 月の GROOVE MERCHANT などアメリカ在住のミュージシャンたちとの日本でのツアーのプロデュースも行っています。

♪ ニューヨークの生活で一番衝撃を受けたことは何ですか？

まだ名が通っていないのに化け物のように上手いミュージシャンたちがたくさんいること。ジャムセッションの場などで彼らと演奏したり聴いたりすることは大きな刺激になります。

♪ 関西とニューヨークでの演奏活動で違いは感じますか？

関西に住んでいた頃はリーダーライブやツアーが活動のメインで、そうするとどうしても告知や段取りに割く時間が大きくなり過ぎて思うように練習時間が確保できないというジレンマがありました。ニューヨークではサイドメンとしての活動が主なのでより多くの時間楽器や音楽に触れることができていると思います。

♪「権上康志トリオ」「ジンジャーブレッドボーイズ」「GROOVE MERCHANT」「権上康志＆大友孝彰」等、様々なプロジェクトで活動されていますね。

活動を開始した当初の 10 年ほど前の関西は所謂セッション的な仕事が多く、固定メンバーでオリジナルを演奏するようなバンドは数えるほどしかありませんでした。もちろんセッションはジャズの重要な部分ではありますが、それと同時にジャズメッセンジャーズやマイルスクインテット、コルトレーンカルテットのようにバンドサウンドを追求・発展させる場を持つべきだと思いジンジャーブレッドボーイズを結成し、ツアーを重ね 4 枚のアルバムを制作しました。この時代にクインテット編成のバンドでツアーを回るのはかなり大変なことでしたが、無理をしてでも 20 代の時期にそういった活動をしてきたことが今の自分の糧になっていると思います。

またそれと並行してクインテットのジンジャーとはまた違った動きや演奏のできるトリオでの活動も続けていて、現在でも一時帰国する度に藤山 ET 英一郎（ドラム）奥村和彦（ピアノ）とのリーダートリオで九州や西日本各地をツアーしています。ジンジャーブレッドボーイズのピアニスト大友孝彰とはバンド以外でも様々な形で一緒に演奏してきたのですが、ちょうど 2014 年に我々がお世話になったライブハウス “JUST IN TIME” が閉店することになり、そのお店の音を残しておきたいという想いで彼とライブレコーディングを行いました。その大友も私と同じく2014 年にニューヨークに渡り、現在とても精力的に活動しています。

そして同じように NY に集まってきて奮闘しているたくさんのミュージシャンたちの音を聴いてほしいということで、普段よくギグやストリートで演奏している仲間と GROOVE MERCHANT 名義でレコーディングし、今年の初頭に日本でのツアーも行いました。私も大友も日本を離れているのでジンジャーブレッドボーイズは活動休止状態ですが、先述したように一時帰国の度にトリオツアーは続けていきたいと思いますし、GROOVE MERCHANT は敢えて不動のメンバーではなくフレキシブルに色々なミュージシャンに出入りしてもらって、ゆくゆくはまた新たなメンバーを交えてのレコーディングやツアーも実現できたらと思っています。

♪ ジャズを志すひとつのきっかけはバリー・ハリスのワークショップだったそうですね。

私が高校生のときに、地元の山口県の美祢市や萩市でバリーさんのワークショップが何年か連続で開催され、私は 3 回参加しました。ワークショップ最終日のバリーさんのコンサートでの演奏に感動してジャズという音楽を演奏たいと思うようになりました。具体的にはスイングのスピード感やエネルギー、即興演奏のスリルに惹かれたんだと思います。

♪ 2006 年 8 月にベースの巨匠リチャード・デイビスから数回レッスンを受けられたそうですが、どのような経緯でレッスンを受けられたのですか？　また、どのようなレッスンだったのですか？

そのワークショップでのベースの講師がリチャードさんだったのです。そこでアンサンブルだけではなく個別のベースレッスンも受けることができました。内容的には基礎的なものが主で、楽器をしっかり鳴らすこと、リズムやビートの重要性、ベーシストといえどもメロディーを知りメロディーを弾くことの大切さなどです。そのときの教えは自分がベースを演奏する上でずっと根幹の部分になっています。

♪ 2011 年に自主レーベル「OPEN "E" MUSIC」を立ち上げられ、現在まで 6 枚のアルバムを発表されていますが、立ち上げの経緯と今後のリリース予定について聞かせて下さい。

活動を始めた頃から毎日セッションの仕事をこなすだけではなく、きちんとした作品をクリエイトしそれを携えて全国各地で演奏するスタンスでの活動をしたいという思いが強くありました。現代はインターネットの発達で以前よりずっとローコストでの CD の制作や情報発信、ディスクユニオンさんの協力もあり全国の CD ショップやネット販売等の流通ができる状況になったこともあり、思い切って自主レーベルを立ち上げました。次は先述した GROOVE MERCHANT の 1st には参加していないメンバーをフィーチャーしての 2nd アルバムを年明けにはレコーディングできたらと思っています。

♪ 所有しているベースについて聞かせて下さい。

日本に住んでいた時に使っていたドイツのヘフナー 2002 年製コントラバス（ガンバシェイプ）は今も実家に置いていて、一時帰国ツアーの際にはそれを弾いています。ニューヨークではアメリカの Kay Bass というメーカーの 1940 年製ヴァイオリンシェイプの楽器を使っています。これは合板、所謂ベニヤの楽器で決して高いものではないのですが、正にアメリカの楽器という感

じのキャラクターでパンチが効いていてよく鳴ってくれています。

♪ ニューヨークには「David Gage」等、有名なベース専門店がありますが、今後手に入れたいベースはありますか？

チェコで製作されたジュザックのベースで状態の良い物があれば是非弾いてみたいと思っています。ダークなサウンドの楽器が好みです。

♪ 小さい頃はどんな音楽を聴いていたのですか？　また、お気に入りのミュージシャンは誰でしたか？

ちょっと変わった趣味で当時好きだった TV ドラマのサントラを買ってよく聴いてました。特に好きだったのは古畑任三郎なんですが、古畑任三郎の劇伴は今思うとジャズのサウンドなんですよね。そういった音が刷り込まれていたのかもしれません。といっても中学生になったらロックばっかり聴いていたわけですが（笑）

♪ 強い影響を受けた 3 人のベーシストについて教えて下さい。

リチャード・デイビス：前述のワークショップで初めて聴いて衝撃を受けて以来ずっと別格の存在です。誰にも真似できない唯一無二の個性ですよね。ウィスコンシンの自宅まで訪ねて行ったこともありました。無人島にレコードを一枚持って行くとしたら何にする？という質問が昔からありますが、自分は彼とエルヴィン・ジョーンズによる Heavy Sounds を選ぶと思います。

チャールズ・ミンガス：学生時代に直立猿人を聴いて度肝を抜かれ、ハイチ人の戦闘の歌に震え、Moanin'（有名なボビー・ティモンズのものとは同名異曲）に興奮したものです。ベーシストとしてのみならず作曲家・バンドリーダー、トータルの音楽家として非常に尊敬しています。

ポール・チェンバース：しかし一番たくさんコピーして研究したベーシストはやはりこの人です。来る日も来る日も Bass on Top や Chambers' Music でのベースラインやソロを追いかけてきました。チェンバースのプレイはいつ聴いても惚れ惚れしますね！

♪ 本誌由来のリロイ・ヴィネガーについてどう思いますか？

一言で言うなら「漢の中の漢」だと思います。私の持論ですが、究極のベースソロはウォーキングソロだと思うのです。しかしウォーキングソロで聴き手や共演者を納得させるためには確かなテクニックとスイング感、そしてなにより強靭なメンタルが必要です。彼はいつ如何なる時でもウォーキングソロを貫き通します。細かなフレーズソロには目もくれず一貫して四つを刻み続ける、これを漢（おとこ）と言わずして何と言いましょうか？正に男が惚れる漢です。もちろんウォーキングソロのみならずソリストを支える際のグルーヴも最高ですよね。

♪ ベースを弾く上で一番大切なことは何ですか？

その名の通り常にアンサンブルのベース（土台・ボトム）であり続けることだと思います。

♪ ライヴで常に心掛けていることはありますか？

とにかく周りの音を聴くことです。また目を閉じながら演奏するミュージシャンもたくさんいますが私はなるべく目は閉じずに、周囲で起きていることに常にオープンでいられるように心がけています。

♪ どのようなベーシストを目指していますか？

共演者に常に安心感と同時に冒険をする勇気を与えることができ、そして彼らから必要とされるベーシスト。

♪ 共演してみたいミュージシャンはいますか？

ベーシストにとって素晴らしいドラマーと一緒に演奏することは何よりの喜びです。そういう意味で一人を選べるとすれば、ブライアン・ブレイドです。そしてジャンルに限らずもう一人選べるとすればやはり…スティービー・ワンダーですね。

♪ 音楽以外の趣味はありますか？

ラジオを聴くことですかね。といっても音楽番組ではなくお笑い芸人の深夜ラジオですが（笑）

♪ 今後の目標と将来の夢について聞かせて下さい。

自分が CD やレコードで聴いてきたような、尊敬する素晴らしいミュージシャンたちと一緒に音を出したい。またそういった人たちとの演奏を日本の皆さんに聴いてもらえるような状況を作りたいですし、それをきっかけにジャズを好きになったり興味を持つ人が一人でも増えればミュージシャン冥利に尽きると思います。

♪ 権上さんにとって“ ベース ”とは何ですか？

もしベースを弾いていなかったら、もしジャズを演奏していなかったらこんなにもたくさんの人たちに出会うことはなかったでしょうし、ましてや日本を離れニューヨークに住むなんてこともありえなかったと思います。そういう意味でベースは自分をここまで導いてくれた存在です。これからもベースと共に色々な新しい世界を見てみたいと思います。

♪ 最後に、今号で創刊 50 号を迎える『The Walker' s』読者にメッセージをお願いします。

これからもジャズとベースに真摯に取り組み、精進していきますのでよろしくお願い致します。そしていつかどこかの街のライブハウスで、皆さんとお会いできることを楽しみにしています！The Walker's 創刊 50 号おめでとうございます！

【権上康志のライブ日記】http://jazz-bass-gonjo.seesaa.net/

ジンジャーブレッドボーイズの 4th アルバム

ライヴ !!

2014.3.19 発売

OEM-004

¥2,160（税込）

現時点の権上康志の最新アルバム

グルーヴ・マーチャント

2017.2.8 発売

OEM-006

¥2,160（税込）